

滋賀県環境審議会 水・土壌・大気部会 議事録概要

開催日時

平成 22 年 6 月 25 日（金） 10:00～12:00

開催場所

コラボしが 21 大会議室

出席委員

川地部会長、笠原委員、上総委員（代理）、川嶋委員、北出委員、塚本委員（代理）、寺田委員、鳥塚委員、中西委員、中村委員、原委員（代理）、平井委員、深町委員、松井委員、和田委員（全 18 委員、出席 15 委員、欠席 3 委員）

議題

- ・平成 21 年度公共用水域水質測定結果について（報告）
- ・平成 21 年度大気調査結果について（報告）

平成 21 年度公共用水域水質測定結果について

事務局から説明後、以下の質疑がありました。

- 【北出委員】 家棟川の濁りがとれない状況になっています。田んぼの土手の土が混じっているのではないかと素人判断として思っています。宇曾川と家棟川が環境基準の類型指定が B で、基準を達成しているものの何か対策が必要ではないかと思いましたがいかがでしょうか。
- 【事務局】 環境基準は利水目的によって類型指定されますが、周辺の土地利用の状況によって、負荷が少なければ厳しい A、農業利用や市街地など既に負荷がある場所では B というようなことも加味して決めています。家棟川は、このようにして決めた環境基準を一応満たしているということになっています。ただ、委員おっしゃるように毎月の調査時の状況によって水質の悪化はあると考えます。
- 【川地部会長】 確かに基準を達成している月が多いですが、注視しなければならないということだと思います。
- 【川嶋委員】 3 点質問します。まず南湖における浚渫は水質への影響が大きかったが、いつ頃終わったのか。ご存知なら教えてください。
次に北湖について、少雨により窒素の負荷量が低減し全窒素が下がって

いることは分かりますが、雨水中の窒素濃度にもよると思いますので、把握されていれば教えてください。

もう一点は、富栄養化が抑制されているという総評と COD が増加していることは矛盾しているように聞こえるので、窒素、りんとの関係で COD の話もしないといけないのではと思います。

【事務局】 浚渫の時期については手元に情報がありませんので、後日回答します。

1

雨水の窒素濃度についても手元に数字を持ち合わせていません。 2

富栄養化については、植物プランクトンの生産の栄養となる窒素とリンの濃度が下がっており、かつ、植物プランクトン量の指標であるクロロフィルの濃度も少し下がっていることから富栄養化の抑制としたところでございますが、反面 COD が増加しています。この COD の増加に寄与している物質は溶存態がほとんどで懸濁態は寄与度が低く、その低い中で植物プランクトンが少し増えているということがあります。まだ水質汚濁メカニズムの解明にまで至ってはいませんが、そのような面で窒素、リンと COD は違った動きをしているのではないかと考えています。

(後日回答)

1 琵琶湖南湖の砂利採取は実質平成 20 年度末で終了しています。

2 昨年度の年間平均のデータでは、硝酸態窒素が 0.23 mg/l、アンモニア態窒素が 0.23 mg/l となっています。

【深町委員】 ちょうど先週に安曇川の河口に行きますと、アユが大量に死んでいました。地元の方に聞くと今まで一度もない状況と言われていましたが、生き物が住める環境という視点での調査研究はどうされているのか教えてください。

【事務局】 アユの斃死については琵琶湖周辺で情報が入っており、水産試験場でも一部検査しましたところ、冷水病というアユ独特の病気の病原菌が検出されましたので、死亡の原因は冷水病と考えています。平成 4 年度以降、こういった事例があり、今年はこちら 10 年の平均よりもアユが多く、例年に比べて目立っているのではと考えています。

【鳥塚委員】 水草の繁茂により、窒素、リンがより吸収され低下し、また透明度も高くなったということですが、一方で 10 月以降に水草が枯れて湖底へ落ち込み、それが湖底の貧酸素化を招く最大の要素ではないかと考えています。水草繁茂が琵琶湖にもたらす影響として、県はどのように考えられていますか。

【事務局】 水草は適度に繁茂していると魚の産卵場や隠れ場になりいいのですが、南湖については我々も異常繁茂という言葉を使っており、水草の刈り取

りなどを行っているところです。今の状況が本来の琵琶湖の水草の繁茂状況ではないと考えていますので、今後も適度な繁茂になるよう取り組んで参りたいと考えています。

【鳥塚委員】 温暖化現象が言われる中、国土交通省の資料にもあるように、少雨傾向が進行しているため、琵琶湖への流入水量が減少している中で、全窒素・りん（リン）の負荷量が増大する結果になると考えますが、そのところの見解はどのように考えられていますか。

【事務局】 少雨により流入水量が減れば、窒素、りんおよび COD の濃度は上がってくると思われますが、雨量の経年変化のデータは持ち合わせていませんので、詳しいことは言えません。また、雨の降り方によっても、雨水中の窒素は変動するだろうと思います。集水域からの流入負荷については河川で調査をしており、推計できるように研究しているところです。

【北出委員】 河川からゴミが大量に琵琶湖に流れ込んでいると思いますが、そのゴミにより水質が汚濁するとか、危険性とか、いろんな問題はあるのでしょうか。

【事務局】 あらゆるリスクを想定して調査しているわけではありませんが、今行っている調査においては、琵琶湖はどのポイント、時期でもすべて有害物質は不検出という状況です。

平成 21 年度大気汚染状況測定結果について

【川嶋委員】 二酸化窒素が減ってきているのに光化学オキシダントが増えているというのはどうしてでしょうか。

【事務局】 全国的にもそういうことが起こり研究がされていますが、大きな要因の一つとしては、大陸からの越境の影響です。あとは温度の上昇あるいは紫外線の増加も原因の一つではないかと言われています。

【川嶋委員】 VOC はあまり問題ではないのですか。

【事務局】 VOC も減少傾向にあります。原因物質が下がっているのに、なぜ上がっているかということについては、今シミュレーション等で検討しているところです。